

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500019		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	福岡県大牟田市大字田隈766番地5		
自己評価作成日	平成22年3月29日	評価結果確定日	平成22年5月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事を沢山取り入れ、出来るだけ外に出る機会を多く持ち、季節を感じていただくと共に、行事には、ご家族へ参加の呼びかけを行い、ご家族との関係の継続が出来るように心がけている。又、高齢者の方に合わせて無理のない日課と、ゆっくりした生活を送っていただけるような、支援を心がけている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

産婦人科医院を改装して開設されたグループホームである。5つの「わ」の理念のもと、共に寄り添い、安心・安全な暮らしを支援していくことを目標に、職員全体で利用者の望むケアを行っている。今年、身内のおられない利用者をホームで看取る等の支援事例が見られた。家族や行政との連携、交流が活発で、年に1回の会食会やホーム行事の際は、町内会長や民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員、家族との交流が積極的に行われ、生活の和、尊厳の私、地域の輪、みんなの話、幸せの笑の5つの「わ」が育まれている。利用者が釣りに行ったり、手先の器用な方が前職を活かして包丁で食材の野菜を切る等、利用者が楽しみを持ちながら穏やかでさりげない支援が行われている。今後の発展が期待できるホームである。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年4月14日		

## 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から職員の目の届く場所に理念を掲げており、支援において迷ったときは、理念を基に支援に取り組めるように声を掛けている。	玄関に「五つのわ(和・輪・私・笑・話)」の理念を掲示し、自然に目に入る工夫がある。常に理念に立ち戻り、利用者へ寄り添い、地域のなかでその人らしく楽しく暮らせる支援を目指している。日々のケアを通じて、理念の共有と実現にむけての取組みがある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年夏の選挙では、2名の利用者様がご家族の方と一緒に選挙に行くことができ喜ばれていました。	選挙には2名の利用者が足を運んだ。地域の運動会への見学や小学校のどんど焼き等に利用者が参加する等、自然と地域に溶け込んでいる。秋祭りや餅つき大会等のホーム行事に民生委員や行政職員が積極的に参加する等、地域交流への取組みがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事には必ず地域の方へ参加を呼びかけたり、運営推進会議において、利用者様についての問題や、その事柄についての支援方法などを報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで地域との交流について、朝の登校や登園時に事業所の前を通る児童たちに、あいさつを見てはどうかと言う意見を頂戴いたしました。	町内会長や民生委員等の各運営推進員の参加のもと2ヶ月毎に開催されている。活動報告や地域行事の情報提供のほか、朝の登校時・登園時の児童への挨拶についての助言がある等、運営推進会議を活かした取組みがある。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から事業所において取り組みや支援について相談や助言を受けている。又、あんしん介護員の受け入れを行っており、年に2回行政を交えての意見交換会に参加している。	年2回、行政を交えての意見交換会を開催し、運営推進会議やホーム行事時に行政の担当職員や地域包括支援センター職員等が参加し、交流を深めながら連携に取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、直接ケアに結びつくこともあり日頃から話をする機会があり勉強会も行なっている。現在、理解乏しい利用者様については、リスクを回避するためにサインを頂いている。	ホームは、日中は自由に出入りでき、職員は利用者の様子を細かく観察・見守りを行う等、安全面や自由な暮らしを支援している。身体拘束についての外部研修への参加や勉強会を行うほか、管理者がその都度、指導する取組みがある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において、虐待の内容をそれぞれ説明し、特にネグレクトについては、無意識に行なっているかもしれないので、特に気をつけるよう、話をしている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで後見人制度を活用されている、利用者様がおられ、その方を例にあげながら、権利擁護も含めて勉強会を行なっている。	成年後見制度や権利擁護等についての外部研修に参加し、ホーム内で受講報告会を行ったり、以前、成年後見制度を利用していた利用者の事例を活用して勉強会を行うなど、職員全体で理解を深めている。	運営推進会議等を利用して、家族への繰り返しの説明と情報提供を行い、制度の正しい理解と周知が図られることを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行なうと共に、疑問点や要望を聞き入れ納得の上サインを頂いている、その後の疑問点においても相談を受ける旨も伝えている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様については、日頃から意見や要望を聞くようにしており、又、家族会においても訊ねるようにし、話しやすいような場面作りに取り組んでいる。	年4回の家族会やホーム行事への参加、面会時を通じて、家族との交流を深めながら、意見等を表出しやすい雰囲気づくりへの工夫がある。年1回の会食会の際は、民生委員や町内会長、行政職員等と交流を深めながら、要望を気軽に表出する取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度代表者や事務局を交え、主任者会議を行い、意見交換の場を設けるようにしている。	管理者は、職員が意見や提案をしやすい環境を整え、職員から出された意見を、毎月、代表者や事務局を交えた主任者会議で報告し、法人全体で環境改善に努める等、離職を抑える配慮や工夫がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から、職員への声掛けを行い、必要時には職員対応を増やしたりしており、又、平成22年5月支給分より給与昇給を予定している。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、年齢、性別を問わず、定年も無く、やる気ある方に対しては、無資格の方も採用し、職員の力量を考慮した上で配置を行なっている。	職員採用について、年齢や性別などによる制限はなく、やる気を重視しての採用である。日々の業務や行事において、特技や得意分野での能力を發揮できる体制がある。外部研修や資格取得等について勤務調整を行う等の支援体制がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃のケアについて、利用者様への言葉掛けや態度、記録においても尊重した内容心がけ、人権に対する意識を高めるように努めている。	日々のケアにおいて、常に利用者へ人生の先輩としての尊敬の思いを持ち、高齢者の尊厳やプライバシーの保護、身体拘束等について勉強会を行うなど、職員の人権意識を喚起する学習や啓発活動への取組みがある。	行政で行われる人権研修に職員が参加したり、運営推進会議時や行政の出前講座の利用を通じて、職員の人権意識をさらに高め、様々な視点や対象を取り入れた人権学習が継続して行われることを期待します。
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、認知症コーディネーターとして2年間の研修を受けているものや、市、県の研修には積極的に参加するように働きかけている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームとの交流の中でお互いの行事への参加の呼びかけを行ったり、グループホーム協議会に登録するなど、同業者との交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、ご本人様の声を聞き取りながら、不安や不満を感じ取り、又、要望も引き出させるような声掛けを行い、介護計画に繋げる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学申し込み予約時に本人と家族の現状を把握出来る様に情報をいただいている。利用開始時にもさらに本人への聴き取り、家族が困っていることについて話し合うようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の不安な事を聴き、家族からも以前の暮らしの出来事を聞くことでサービス開始時にスタッフの情報の共有を行なっている、医療機関からの利用される場合は入院中の情報収集も行なっている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自己決定を尊重し、本人の意思を大切に、できる事を、できない事との見極めを行なうと共に孤立の無い支援に努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の人生史、生活習慣の情報を家族より聴き取り、今までの関係の継続が出来るように、ご家族の協力のもとに支援に努めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族への聴き取りにて、本人支援マップを作成し馴染みの人や場所の情報を知り、ケアプランの中に取り入れ、支援に努めている。	センター方式の支援マップを活用し、利用者の馴染みの人や馴染みの場所を把握し、介護計画書の中に取り入れ、支援に努めている。利用者のなじみの美容室や理髪店、酒店を利用する等、馴染みの関係を継続する支援がみられる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係をスタッフが把握し、気の合う利用者様同士が何時でも側にいるようにしている。なじみの場所を作る事で孤立しないように努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人への面会を行い、家族とも連絡を取り、関係の継続に努め、気軽にホームに来ていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中から、会話を大切にしており、その時々のご本人の希望があった場所は予定を立てて、希望に添えるように心がけている。	利用前の面談や面会時、家族会等を通じて、家族の意向を把握し、センター方式を活用しながら利用者の生活歴等の情報を把握している。また、日々の中で利用者の動作や表情等から思いや意向を汲み取り、利用者本位の介護計画書の作成や支援に取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前からの暮らしで、朝食を摂られていない利用者様には無理に食べてもらう事を避け、時間をずらしたり、好きなコーヒーを提供したりしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、その日の状態に応じて、洗濯物たたみや、料理のつぎ分けなどを声かけし、無理強いのないように心がけている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画について、参加できない家族様については、電話などの意見を取り入れ、ケアについては、ご本人を交えて、その方の思い出を引き出せるように心がけ、必要時には見直しを行なうようにしている。	計画作成担当者が介護計画書の原案を作成し、職員全体で原案を検討し、利用者本位の介護計画書の作成を行う取組みがある。定期的な見直しとモニタリング及び評価を行い、職員全体で検討し、介護計画書の見直し、再作成を行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活を個別記録に記入しており、その時々に応じて、申し送り時などに変化を報告し、ケアに対する評価を行なった上で見直しに結びつけるように努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時や外出をご家族様にお願いする時があるが、無理な場合は、職員が対応する旨をお伝えし、その時に応じた対応を心がけている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からのお寺行きを継続したり、行きつけの美容院を利用したり、出来るだけ地域へ出て行けるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に現在のかかりつけ医を把握し、ご本人、ご家族に入居後の医療機関の希望を確認し、継続できるように努めている。	かかりつけ医は、本人・家族の意向に沿って支援している。週1回のホーム協力医や2週に1回のかかりつけ医の往診、状態に応じたかかりつけ医との連携及び受診の支援がある。かかりつけ医への受診は、ホームにて支援する仕組みがある。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医により、週に一度の往診を受け、その都度状態を報告しており、急を用する場合は指示を受けるように努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の状況把握を行い、ご家族も含め病院関係者に相談を行い、早期に退院できるように心がけ、退院後の定期受診を行なうことで安定を図る。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族がおられる利用者様については、話し合いを行なっているが、身内のおられない方については、相談員などと今後について検討するようにしている。	契約時に重度化における対応を説明し、本人・家族の意向を確認し、状態変化時にその都度、意向を再確認し、家族・主治医と協議して方針を共有していく仕組みがある。身内のおられない利用者の看取りを行った事例があり、ホーム全体で支援が行われている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急用マニュアルを用意したり、夜間は看護師と連絡取れるようにしているが、定期的な訓練などは行っていない。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っており、22年度は、今まで以上に安全に非難できるような方法を検討中である。	年1回、消防署が立会い、併設する高齢者住宅と合同で避難訓練を実施している。また、年1回の自主訓練を通じて、避難経路の確認等が行われている。運営推進会議や日々のかかわりを通じた地域との連携、協力体制については、今後行っていく予定である。	運営推進会議等で、5月に予定している避難訓練に地域の方や家族への参加、協力を呼びかけ、災害時の協力体制を確保できるような取組を期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、職員への声掛けを行い、必要時には職員対応を増やしたりしており、又、平成22年5月支給分より給与昇給を予定している。	常に尊厳を持った支援を心がけ、日々のケアの中でその都度、言葉による暴力がないよう管理者が指導する等、職員の人権に対する意識の向上を図る仕組みがある。利用者へタイミングを見計らったのさりげない声かけ等、プライバシーに配慮した対応が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からケアを行なう上で、人生の先輩であるという意識を持ち、利用者様への言葉掛けは人格を損ねないように心がけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日などは、今日は何をしたいか等を訊ねてみたり、アイデア等を出してみたりしながら、その日をどのように過したいか、言葉掛けを行なうようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にブラシをおき、鏡を見ながら整髪したり、乳液を用意したり、外出時には口紅を使用したり、おしゃれにも心がけている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事をする事で好みの物の把握ができた、準備や片付けなどは出来る事をお願いし声掛け見守りをしながら行なっている。	主采は、栄養価やバランスを考慮した併設の高齢者住宅の食事を提供し、ご飯・汁物や朝食、日曜日の昼食は、ホームで調理している。利用者が包丁で野菜の下ごしらえや食材の買い物、食事の盛り付けを行う等、利用者の出来る範囲でかかわる取組みがある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により献立をたてており、毎日水分量チェックを行い、水分の足りない利用者様に対しては好みの物を提供するように心がける。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度歯科往診にて口腔内の管理を行なっている。状態把握を行い、毎食後、歯ブラシやスポンジブラシを使用し清潔を保つように努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個人の排泄パターンの把握に取り組み、個人に応じて声掛け誘導を行なっている。	排泄チェック表を使用して利用者の排泄パターンを把握し、尿意のない利用者に見計らって声かけ誘導を行う取組みがある。利用者の自尊心に配慮し、利用者の些細な様子からトイレへの声かけ誘導を行い、失禁による羞恥心や不安の軽減に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日食事の量や水分量を把握し、それに応じた工夫を行なっているが、排便の有無の確認を行い、場合によっては、医師の了解のもと、下剤の調整を行なっている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のときは、前回の入浴日を確認した上で利用者様へ声掛けを行い、希望に応じてゆっくりと入浴していただくと共に、入浴が出来ない方に対しては、清拭を行なうようにしている。	週1~2回位の利用が多く、利用者の体調に配慮しながら、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。お風呂が苦手な方にも無理強いすることなく、入浴剤や花を湯の上に浮かべたり、声かけを工夫する等、快く入浴できるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態により入床を促したり、希望に合わせて昼寝を取り入れたり、その日、その時に応じた休息をとられるように心がけて、場合によっては寄り添うなど行ないながら安心できる環境作りに取り組んでいる。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬や外用薬については看護師が責任を持ち、服用時には職員が服薬確認を行なっている。又、変更などがある時は連絡などが、ある時は連絡ノートや申し送り確認を行なっている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性の入居者様でも調理に参加されたり、それぞれの役割ができており、継続できることの喜びや、たばこ、お酒などで気分転換を図り、次回への楽しみがもてるように支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの希望は、あまり聞かれないので、スタッフ側からアイデアを出し、場合によっては、ご家族の方の協力のもと、ご本人様の希望に添えるような働きかけを行なっている。	地域の運動会・どんど焼きの見学や花見、外食、温泉、買い物等、利用者の状況に応じてできるだけ戸外に出かける支援が行われている。利用者が毎月、お寺に行ったり、釣りや行きつけの美容室・理髪店への外出等、個別の希望に応じて支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名の方がお金を所持されており、何時でも買い物に行けるように伝えているが、ご本人様から希望がない時は、スタッフから声掛けを行なうようにしている。又、買い物をされる時は、自分で購入していただくように声掛けを行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より希望がある場合は何時でも電話連絡が出来るように支援している、家族にも了解をいただいている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い場合はレースのカーテンを使用し混乱がないよう努めている、共用の居間では、四季があじわえる、花を活けて季節を感じさせてもらうようにしている。	リビングには多数のソファが置かれ、利用者がゆっくりと過ごすことができる心地良い空間となっている。リビングの様々な所に季節の花をさりげなく活けたり、窓から大きな多数のこいのぼりを眺めることができるなど、季節を肌で感じる家庭的な雰囲気を醸し出している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が居室にて語らい、共同空間においても気の合った利用者同士が過せる空間作りをしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは在宅中に使用されていた、ベッド、布団、家具、仏壇等、本人さんが大切にされていた物を持ってきていただくように家族にも協力していただいている。	居室には、ベッドや寝具、釣り道具、調度品、写真、テレビ、仏壇等、馴染みの物が持ち込まれており、安心して居心地よく過ごせる工夫や配慮がある。居室の一部に畳を敷いて低床ベッドを利用するなど、本人・家族の希望に応じて安全で使いやすいように配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存機能の活用においてスタッフが理解し出来ることは本人の意思において、自立してやっていただくスタッフは見守りとアドバイスが出来るようにしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			